

有珠山の火山活動について

有珠山の火山活動について、火山噴火予知連絡会は気象庁で緊急拡大幹事会を開催し、以下のとおり見解を発表した。

有珠山は3月31日13時10分頃噴火した。噴火は有珠山の西側山麓で火口列を形成し発生した。噴火は水蒸気爆発と思われる。噴煙の高さは最高で3200メートルに達し東に流れた。

有珠山では、3月27日から地震が次第に増加し、28日からは地震の規模が大きくなり山麓で有感となる地震および低周波地震も発生したが、30日の午後からはやや減少傾向にあった。

29日からはGPS観測により地殻変動が観測され、30日には地割れ等が確認された。

今後も噴火活動が続くと考えられ、噴火場所の移動の可能性もある。

今後の火山活動に厳重な警戒が必要である。

平成12年4月2日
火山噴火予知連絡会有珠山部会

火山噴火予知連絡会有珠山部会見解

有珠山では、3月27日からの一連の地震活動、地殻変動の後、北西山麓で3月31日に噴火が始まった。現在のところ、水蒸気爆発～弱いマグマ水蒸気爆発が断続的に続いている。噴火地点は北西山麓の一部に限定されている。この噴火活動の様式は、1910年の噴火の初期の活動に似ている。当面は、この領域で今までのような噴火活動が継続すると考えられる。

本格的な軽石噴火の可能性は、依然残されており、観測を強化し、総合的に今後の推移を注意深く見守る必要がある。

今後も火山活動に警戒が必要である。

平成12年4月5日
火山噴火予知連絡会有珠山部会

火山噴火予知連絡会有珠山部会見解

3月31日に噴火を開始した有珠山においては現在のところ、北西山麓に限定された水蒸気爆発～弱いマグマ水蒸気爆発が断続的に続いている。この噴火活動の様式は、1910年の噴火初期の活動に似ており、西山西麓においては顕著な地形変動が観測されている。当面、有珠山北西山麓における溶岩ドーム活動に移る可能性が高いと考えられる。

溶岩ドーム出現前には、爆発的噴火やそれに伴い火砕流や火砕サージの発生する可能性がある。

このような爆発的噴火の発生に際しては、噴煙の発生状況の変化や地形変動、地殻変動等の前兆的なシグナルが現れると考えられるので、厳重な観測・監視が重要である。

現在進行している地形変動や地殻変動、及び過去の噴火履歴からみて、このような爆発的な噴火が発生するとすれば、この2、3日から1、2週間以内の可能性が高い。

今後の火山活動に厳重な警戒が必要である。

平成12年4月12日
気 象 庁

有珠山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

有珠山の火山活動について検討し、活動評価を行った結果は以下のとおりである。

有珠山北西山麓の火口群では、3月31日以降、水蒸気爆発～弱いマグマ水蒸気爆発が継続しているが、この数日は弱いマグマ水蒸気爆発を続けている。これは地下水と熱源の関係がバランスしているためと推定される。

現在、地震活動は低く、最初の噴火前後に観測された山頂部を含む広域の地殻変動はほとんど停止している。地殻変動は、北西山麓に局地化して、現在も継続している。その隆起量は1日あたり最大1mに達していることが観測されている。このような地殻変動や地表で見られる亀裂、断層は、北西山麓へのマグマの供給が依然として継続していることを示している。

当面は現状と同様の水蒸気爆発～弱いマグマ水蒸気爆発が継続すると考えられる。今後、地下水との関係が変化した場合には、北西山麓でやや大きな爆発が発生し、時には火砕サージを伴う可能性がある。このような活動に推移するとすれば、その前には、噴煙等の変化、地殻変動等の総合的監視解析によりその到来を判断することは可能である。このためには、観測体制の整備が重要である。

現状の観測データでは、山頂部の大規模噴火に移行することを示す現象は見られない。また、そのような大規模噴火に移行する前には地震、地殻変動等に変化が観測されることが考えられる。

以上のことから、当面は北西山麓での噴火活動に対する警戒が最も重要である。引き続き火山活動の推移を厳重に監視する必要がある。